

報恩寺第九代住職・法幢院釈孝雄 葬儀経緯の概要 (2022年1月24日往生、28日葬儀)

3年前の春、自転車で転倒して人工股関節をしてから、リハビリもあまり功を奏さず、徐々にベッド生活が長くなり、一年前から膝の拘縮が進んで在宅マッサージを週2回受けてきた。12月からは在宅リハビリに切り替えたものの筋力低下も著しく、食事姿勢も取りにくくなり会話(呼吸)もかすれがち、今年初めには床ずれもでき反応も鈍く、寝たきりに近い状態に陥った。以下に、(特に寺院向け)記録として命終～葬儀終了の要旨を記す。

■初日：24日

朝～夕方

夜

・病院搬送

・警察対応

・遺体搬送

- ・前日朝からほとんど身じろぎもせず。午前中は訪問リハ「先週からだいぶ弱ってますね」と、それでも膝や両腕の動作は行すが、昼食もほぼ受け付けず、午後以降は目を閉じて息も浅い。
- ・9時過ぎ、父の胸が動いてなく冷たくなりかけているのを発見。119番、電話指示で心臓マッサージしながら救急車到着。病院着後蘇生措置続くも20分ほどで死亡診断。そのかんに身内や、葬儀社T社に第一報。91歳と11ヶ月をもって心臓と呼吸は停止した。
- ・エンゼルケアと警察検視の間、死亡発見時の経緯について事情聴取される。在宅で死亡し(医師不在)、救急車を讀んだ時点で警察が動くとのこと。家に遺体を戻すまでプラス2時間ほどかかる。いったん帰宅して警察の室内検分(父のベッド周りから財布の中身、携帯履歴までこと細かく)。1時間ほどで問題なしと。診断書は虚血性心不全だが老衰に近いのでは。
- ・葬儀社と病院にて合流、遺体搬送。1時過ぎに帰宅し安置する(寝具の用意)。

■二日目：25日

朝～午前中

・諸連絡

・日程協議

・室内準備

午後

・業者打合せ

・総代打合せ

・組、別院へ通知

- ・上寺とお隣寺中、筆頭総代さんらへ一報。日程について協議(三日後葬儀も思案したが、結果的に四日後でも準備ギリギリだった)、出仕6か寺控え室・接待は隣寺で。近隣のお悔やみ。
- ・隣の座敷を執務部屋にし、各種文房具など用意。以降後処理まで、クリップや空封筒、クリアファイル、ホッチキス、付箋、筆ペン、空き箱など文具多数必要。記録(覚書)ノートも必須。療養中の妻や近隣の方で室内掃除や整頓。役僧さん2名、法類(親戚寺院)、他の関係者に連絡。
- ・葬儀社T社担当さん来て第1回目打合せ。死亡届、火葬依頼、日程、会葬令状締切など確認。法類ら来寺、役僧さん来て段取り打合せ。総代さんら随時来寺。帳場係決めて各位へ依頼。法類・M寺若住職と差定や装束など協議。以降、祖母の時の記録帳と首っぴき。教務所、組長へ連絡し、FAXで書面確認。組内寺院には「時節柄組内通夜はなし。通夜前に各位で焼香」でFAX案内してもらう。内願院号、遺影用写真は父が準備済み。東京から妹着。
- ・M寺若住職に会行司として法中出仕案内状作成をお任せしてスタッフ解散。(上寺の)年行司用訃報通知DM葉書作成。宛名書き42通を妹に頼み、本局へ投函に走る。
- ・総代三名集合して段取り分担など打合せ・確認。供物割り振り。妹と参列者(供物、弁当)一覧表段取り。自分の仕事代替段取り、会葬令状文面、一般門徒用DM・宛名ラベル準備など。

夕方～深夜

・通知第一弾発送

・総代会議

■三日目：26日

朝～午前中

・内陣設営

・出仕案内

・業者打合せ

午後

・会葬令状校正

・寺院お悔やみ

夕方～夜

・通知第二弾発送

・供物、装束他

- ・役僧二人内陣設営にかかる。打敷裏返し、半紙で房など包む、供物用餅買い出しなど。寺院記帳用コピー用紙、経卓、筆ペン用意。
- ・会行司さん来て、会行司、役僧、総代さん二人組で6ヶ寺へ出仕案内へ走る。
- ・T社さん来て第2回打合せ。供物関係など諸々資料や返礼の説明、的確な助言ありがたい。
- ・会行事、役僧さん隣寺R寺さんらで式次第打ち合わせお任せ。除雪依頼。
- ・T社さん少し荷物搬入。会葬令状修正指示。I組さんに除雪作業依頼。
- ・夕方、元総代さんらに除雪作業依頼。I組境内除雪。各寺院お悔やみ来寺で挨拶対応。
- ・T社さん令状50セット先発持ち込み。会場設営のための打合せと片付け。
- ・筆頭総代さんに弔辞依頼。一般門徒用DM約200通、宛名ラベル抽出、発送作業。供物や食事発注段取りや準備を妹と深夜まで協議。表白作成。棺用装束など準備。

■四日目：27日

朝～午前中

・商品券先発着

・帳場設営

・会場設営

昼

- ・門徒さんら数名で平垣や表門除雪。P商事から先発商品券受け取り。
- ・T社さんら数名で会場設営準備。義弟と姪に写真と動画記録を依頼(機材準備)。
- ・総代さんT社さん打合せ。テント帳場設置(場所は考慮要)。水溜まりをブルーシートで対処。
- ・会行司さんらと打合せ続き。食事、供物、引き出物関係をT社さんと妹で。
- ・納棺業者到着、準備。装束に着替えて、シャンプー～着替え作業を立ち合い見守る。

- ・納棺、移棺
- ・出棺勤行
- ・寺院帳場開設
- ・組内寺院弔問

夕方6時～夜

- ・通夜
- ・弔電、焼香順、お礼、配車ほか

- ・数人で遺体を棺の中に入れ内陣中央に安置（内陣の両脇壇前に花、外陣右の間に供物設置）。棺前に花壇設置して出棺勤行（導師：M 寺住職）。
- ・寺院帳場係のみ先発集合。本堂襖取外し（田の字座敷）カーペット敷き。事務作業は別室へ。
- ・会行司さんから上寺に差定・表白打ち合わせへ。丹生組内寺院ぼちぼち来寺、ご挨拶。
- ・4時頃～寺院お弔問対応。浄書すべき包みの表書きの時間なく、30通弱 T 社さんに依頼（金額のみ手前で）。テント内ストーブに灯油供給。帳場係あと二組集合、親族ら次々来寺。
- ・6時～通夜開始。途中、混み合って立礼に。県道～駐車場導入も混雑。
- ・回り焼香なので親類参列者に対して喪主挨拶。喪主としての心境、父の命終に至る経緯など主に話す。通夜後も弔問客少し続く。明日の打合せを会行事&役僧さんらと。
- ・遅くまで妹と明日の段取り追い込み。焼香順、火葬場配車（バスはなし）、弔電順、引き出物（六割返して残りは忌明けで充当）、お粗末料など。明日の装束準備。

■五日目：28日

朝～午前中

- ・葬列、配車
- ・司会者と確認
- ・葬儀式
- ・花入れ
- ・出棺
- ・火葬

昼～午後

- ・待機
- ・収骨
- ・還骨

夕方～夜

- ・9時前ごろからスタッフ順次集合。妹と総代さんで香典と引き出物関連の確認など。葬列、配車、火葬場来場者名簿チェック。司会者と焼香順、弔電打合せ。ぎりぎりまで準備確認。
- ・10時半～開式。達書伝達式10分程。全部終わって喪主挨拶「このお弔いの場と時間は自分に何を伝えようとしているのか」。各位に感謝の言葉。近親葬だがご門徒さん数名ご参列。
- ・棺を下ろし、皆で花入れ。葬列と配車の準備。向拝から葬列出発。ちょうど晴れ間の中、表門へ進む。近所の方などお見送りに。菓子盛り配り、引き出物セット組みは総代さんらで。
- ・5分ほどで場着。火屋勤行（H 寺若住職＋役僧）参列者十数人。妹と点火ボタン。分乗して帰寺。
- ・戻ると会場撤収も済み、引き出物もほぼ準備済みだが一部渡し損ねてしまう。少し片付けして机を出し待機組十数名で昼食弁当。お粗末料が間に合わない旨、皆にご了解いただく。
- ・2時過ぎ 火葬場へ収骨に。家族と親族ら。喉仏はきれいに残って立派。
- ・3時前、帰寺して親族・役僧らで還骨勤行。導師・会行事さんより最後の挨拶。
- ・打合せや片付けしつつ順次解散。親族らと夕食、送迎など。少し後始末、明日以降の段取り。

■葬儀翌日：29日

朝～午前中

- ・挨拶、初七日
- ・お礼回り

昼～午後

- ・筆頭総代と上寺、隣寺へお粗末料持ってあいさつ。一日早い初七日法事を親族らと。
- ・親族らをホテルや駅へ送りつつ、帰りに世話方や法類宅へ回って当日渡すべきだったお粗末料やお礼（引き出物）を渡す。以降、四、五日ほどかかるが、いろいろ話が出たり、立ち話でも交流があってよかった。不在中に何人かお悔やみあり。
- ・残った妹と各種手続き下調べ・後処理作業。お粗末料表書き。印鑑や手帳、証書類確認。

■以降一週間ほど

- ・弔問客対応
- ・挨拶回り
- ・返礼段取り
- ・行政、年金、保険、不動産、金融機関など
- ・部屋の片付け

- ・世話方各位へお粗末料とお礼。四箇所ほど講中への返礼個別発送。
- ・P 商事返品精算。砂糖箱、商品券いくつか残し。T 社さん請求書確認。
- ・総代さんらと協議し、満中陰を一週遅らせ、3/21 午前中に内定する。
- ・まず市役所で戸籍謄本と住民票取得、保険証返却など。窓口で記入の仕方不案内もあり、後日やはり原戸籍入手（申請ダブる）。金融機関、年金事務所それぞれ複写済むため何通か無駄に。相続人各自印鑑証明書と原戸籍謄本それぞれ2-3通あれば OK だった。
- ・農協、銀行、郵便局を回り、それぞれ口座相続手続きや死亡保険の説明と書類をもらう。
- ・自分名義の口座開設し、市役所収納課で引き落とし口座変更手続き。

葬儀執行のポイントと反省点（寺院や地域個別によって異なる点多々あり）

- ・寺院特有の仕事は煩雑。総代さんや世話方、法類、親類に作業段取りを振り分けてしまう。特に、お悔やみ対応（仮亭主）、返礼引き出物発注、供物振り分けと徴収、臨時会計（仮出金と伝票）、参列者席、火葬場配車、記録など。
- ・会葬令状、表白、喪主挨拶は極力オリジナルが望ましい。弔辞（総代）は前後を定型文言で押さえても良い。
- ・葬儀後の香典はご門徒の方などから一ヶ月以上も後まで続くことあり、商品券などは多めに残す。
- ・喪主も関係者の方々も含め、（経験者が少ないのでなお）種々の段取りや仕事を経験し共有してもらおうスタンスで。法類、総代、世話方、葬儀社らとは普段から意思疎通を心がけ、信頼関係を築いておくことも大事
- ・あらかじめ以前の葬儀記録を調べて必要な作業や周辺在所での慣習を確認し、当人と意思疎通ができる間に、特に告知先や世話人、返礼の仕方、遺言、院号、遺影、装束、費用などについてできるだけ聞いておく。